

秋に40周年記念行事予定

(社)広島県配置医薬品連合会総会

一般社団法人広島県配置医薬品連合会(小島恒治会長)の第四十回定期総会が、平成二十四年十一月八日午後三時から広島市中区加古町の広島市文化交流会館のプロバンスで開かれ、平成二十五年秋に四十年記念行事開催の予定が示されたほか、総会前には、平成二十五年度各種申請の一括受付を実施し、二百二十人の申請書を受け付けた。

来賓には、顧問の緒方直之興、広島県健康福祉局業務課の仲本典正課長を迎えた。

総会では、金田和宏副会長の司会で始められ、定数を



小島会長



第40回定期総会会場

野高志理事を選んだ。一号議案「業務報告・業務報告」は、議長が会長に説明を求め、小島会長は、謝の言葉を述べると共に忘憚の無い意見を希望して、前向きな運営に努めると述べた。

議長選出は、司会者一任となり、門那良三副会長の選出。議事録署名人には笠野高志理事を選んだ。

報告への質問等は無く拍手で承認。

なお、今年度の広島県知事表彰(業務功労)に近藤雅美副会長の受賞内示があったことが伝えられ、会場から拍手がおきた。

二号議案「会計報告・監査報告」は、議長が平野克重会計に説明を求め、平野会計は平成

近藤雅美氏に県知事表彰 第29回広島県薬事衛生大会



近藤雅美氏



県下薬業団体関係者が参加した

第二十九回広島県薬事衛生大会(主催・同大会実行委員会)が平成二十四年十一月二十九日午後二時から広島市中区富十見町のエン

ル広島二階多目的ホールで開かれ、広島県下薬業団体関係者百三十名が参加、一般社団法人広島県配置医薬品連合会(小島恒治会長)からも十五名が参加した。席上おこなわれた広島県知事表彰(業務功労)で、広島連合会から近藤雅美副会長が受賞した。

大会は、薬事衛生の第一線で活躍する人々が一堂に会し、薬事衛生思想の普及や医薬品の適正使用の推進を図り、県民の保健衛生の向上と医薬品産業の振興に向けて研鑽を積む目的で開催されているもので、社団法人広島県薬剤師会、社団法人広島県医薬品登録販売者協会、広島県医薬品卸業協同組合、広島県麻薬協会、広島県薬剤師国民健康保険組合、一般社団法人広島県配置医薬品連合会、広島県製薬協会、広島県医薬品配置協議会の共催により開かれた。

前田泰則大会長(社)広島県薬剤師会、あいさつのおと、広島県知事表彰の授与となり、近藤広島県配置医薬品連合会副会長はじめ五氏に湯崎英彦県知事から一人ひとりに表彰状が贈られた。

そのあと各大臣表彰受賞者(三氏)と厚生労働省医薬品局長表彰受賞者(一氏)が披露され、湯崎英彦県知事、林正夫県議会議長、松井一實広島県市長、吉田隆行広島県町村会会長、平松恵一広島県医師会会長らが祝辞を述べた。

来賓紹介、祝電披露、受賞者謝辞、大会宣言ののち、午後二時五十分閉会した。引き続き午後三時から特別講演があり、「このまま進化した『白内障手術』と見える喜び『角膜移植』と題し、医療法人社団ひかり会・木村眼科内科病院長の木村巨院長が講演。

木村講師は、白内障手術の映像や角膜移植の映像を映写しながら、献眼者・移植者等の推移を示し、献眼が少くない実情を訴え、「献眼すること角膜を提供する人も角膜をもらう人も心の満足を得られる。献眼は



榎山県議 仲本県業務課長 緒方県議

を記入して改善することと議長は、その他質問等を確認して監督報告を若木凌二監事に求め、若木監事は、相違なき旨を報告、異議なく拍手で承認された。

三号議案「平成二十五年事業計画案審議」は、議長が会長に説明を求め、小島会長は配布資料を元に研修会・各種行事の年間スケジュールを提案。また、理事会・委員会等は定期以外の招集には臨機応変に対応し、業務課等の調整が必要場合は変更もある」と説明。

質疑応答では、相談役の死去があり新たな相談役に就任の見解が求められ、継続審議とし、役員会まで執行部で意見調整することとした。また、四十年記念行事についての見解が求められ、四十年記念行事は平成二十五年秋に行う予定とし、具体案を執行部

人生最後の素晴らしい贈り物」と結んだ。

午後四時半に講演会が終了、引き続き社団法人広島県薬剤師会主催による平成二十四年度薬祖神大祭が隣接する広島県薬剤師会館で営まれ、広島県配置医薬品連合会の五名と受賞者も招待を受け参加した。

開式の辞のあと修成の儀、降神の儀、献饌、祝詞奏上、玉串奉奠、撤饌、昇神の儀、閉式の辞と進められ、玉串奉奠では、小島恒治広島県配置医薬品連合会会長はじめ各薬業団体長が玉串を捧げた。

そのあと大祭祝宴が催され、前田県薬剤師会長のあいさつのおと、来賓の岸田文雄衆議院議員、林正夫広島県議会議長、仲本典正広島県健康福祉局長代理業務課長、田中秀雄広島市健康福祉局保健部長代理次長から祝辞があり、山本靖雄広

配置外登録販売者の研修受入検討

総会前には各種申請一括受付も

薬局の登録販売者から広島連合会に研修(当会の主催)三十三名規模(座学)の依頼があるが前向きに進める。そのほかにも、店舗の登録販売者から、広島連合会の研修への参加希望者があり、対応が求められている。いずれも、県ホーム

業局の登録販売者から広島連合会に研修(当会の主催)三十三名規模(座学)の依頼があるが前向きに進める。そのほかにも、店舗の登録販売者から、広島連合会の研修への参加希望者があり、対応が求められている。いずれも、県ホーム

広島市安佐北区上深川町で、平成十年から現在に至るまで、広島県配置医薬品連合会の理事として、会の発展と会員相互の親睦和を図るとともに、組織の充実に努めた。平成十七年から平成十八年まで同会常任理事として、事業計画・予算の改善に積極的に意見を述べ、予算改革に尽力した。平成十八年から平成二十二年まで平成二十三年から現在に至るまで、同会副会長として、積極的に運営に関与し、配置販売業者としての意識向上へ多大に尽力。薬事講習会、献血活動などの会員の資質向上を目的とした事業に尽力し、業界に尽くした。

近藤雅美氏

広島連合会は、平成十八年に全配協等から離脱しているが、情報として、全配連が新全配協に対して起こしている民事裁判の経緯等を説明した。これについては、個人的な見解として小島会長は、「全配協側の主張に虚偽や無理があるように感じられ全配連側に理があるように思われる」などと述べた。

また、現在四つの全国団体があり、新全配協以外の団体は連携して厚労省に働きかけたり、会議等を開き意見交換をしていることも伝えた。

さらに、県業務課からの要望により、広島協協会との連携に関して話し合いがあったが、物別れに終わったことを報告。元々当初から広島連合会は、組織的な問題は別にして、同業者としての連携を訴えていた経緯もあるが、広島連合会独

自の研修やスタンスに広島協協会側の理解を得られないことがある」と説明。「今後も話し合いは機会を見て続ける予定」と報告した。

ネームプレートの更新については、「平成二十五年十二月まで有効であり、順次新しい写真を提出してほしい。費用は予め予算を取って積み立てているので全会員無料」と伝えた。

そのほか、リスク区分板と自己点検表の活用に関して徹底を要請した。なお、リスク区分板は一次分の五万枚(一枚五円)は完売している。

議長は質問等を確認して議案の審議を終わり、議長席を離れた。

ここで緒方顧問と仲本課長から、それぞれの立場での祝辞が述べられた。

最後に二反田正弘副会長の閉会のあいさつで総会を閉じた。

引き続き懇親会を別室の「十字星」で午後五時から開催。公務のため総会に間に合わなかった顧問の榎山俊宏氏が駆け付けあいさつを述べた。

会場では県議、課長を囲み盛んに意見交換が行われ、なかにはカラオケを歌ったり県議と記念写真を撮る会員もあり、終始和やかな雰囲気で行われ、午後七時に近藤雅美副会長の発声による

野会計は配布資料を元に説明。本日、一部指摘があった科目の予算を変更する予定だが、会員の減少傾向も考慮した案と説明。異議なく拍手多数で承認された。

ここで来賓の緒方県議と仲本課長が来賓。来賓席に引き続き、その他の議案として、議長は小島会長に発言を求めた。

小島会長は、登録販売者研修・広島県業務衛生大会・ネームプレート更新等に関する研修やスタンスに広島協協会側の理解を得られないことがある」と説明。「今後も話し合いは機会を見て続ける予定」と報告した。

ネームプレートの更新については、「平成二十五年十二月まで有効であり、順次新しい写真を提出してほしい。費用は予め予算を取って積み立てているので全会員無料」と伝えた。

そのほか、リスク区分板と自己点検表の活用に関して徹底を要請した。なお、リスク区分板は一次分の五万枚(一枚五円)は完売している。

議長は質問等を確認して議案の審議を終わり、議長席を離れた。

ここで緒方顧問と仲本課長から、それぞれの立場での祝辞が述べられた。

最後に二反田正弘副会長の閉会のあいさつで総会を閉じた。

引き続き懇親会を別室の「十字星」で午後五時から開催。公務のため総会に間に合わなかった顧問の榎山俊宏氏が駆け付けあいさつを述べた。

会場では県議、課長を囲み盛んに意見交換が行われ、なかにはカラオケを歌ったり県議と記念写真を撮る会員もあり、終始和やかな雰囲気で行われ、午後七時に近藤雅美副会長の発声による

が乗っかる考えだと理解してほしい。当然、既存業者の研修より、資格者である登録販売者の研修がレベルは上と言ったことになる」と説明。

登録販売者研修については、来年度からの県業務課・県登録販売者協会との連携も考慮して、今後話し合いを進める。先般三者会談があり、広島連合会からは小池一正氏と門那氏が担当者として対応も報告。

一本締めで閉会した。

なお、総会前の午後一時からは平成二十五年各種申請書一括受付が、同会館のルミエールで、県業務課の担当官を招いて行われた。

今年度は書式の変更があり、一部会員の申請書が書き直しになることもあったが、会員の約八割にあたる二百二十人程度の申請が受

付られた。申請受付では、一次受付を連合会が行い、同時に会費の徴収も行った。なお、残りの郵送分や保留となった書類は、事務局でまとめて改めて提出することとした。

広島県では、原則、従事届に受講証明書原本の添付が厳格に求められ、添付が無い申請は認めない方針となっている。三十時間の受講が達成出来なかった者は従事届に理由を明記することとなっている。場合によっては、連合会に誓約書の提出を求められたり、業務課に受講誓約書を書くこととなっている。

なお、広島連合会では、全会員が三十時間研修を確実に受講することを目標としており、概ね目標を達成している(研修システム登録会員業者一〇〇%受講、従事者受講証明発行九〇%以上)。